

12のキーワード

新版教科書を編集するにあたり、今日的教育課題に対して、さまざまな配慮を行いました。

1 資質・能力

「話す・聞く・書く・読む」活動のなかで、言葉に関する知識・技能を働かせ、学ぶことの意義を実感していくことで、国語科で求められる資質・能力を確実に育みます。

「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」が、はっきり見える教科書です。

3 カリキュラム・マネジメント

学習の基盤となる言語能力や情報活用能力、課題発見・解決能力を育み、教科横断的に資質・能力を伸ばせるように、話題や題材、学習活動を工夫しました。



5 キャリア教育

身近な仕事や、働く大人に目を向けるテーマを設定するとともに、自分の現在や将来について考えを述べる活動を設定し、将来への展望や職業観を育てる一助としました。



「仕事のくふう、見つけたよ」(3年上)



「今、私は、ぼくは」(6年)

2

個別最適な学び・協働的な学び

一人一人が、課題意識・目的意識をもち、意欲的に学習に取り組むことができるよう、「問い」をもつことを大切にしています。

そして、それぞれの考えを尊重しながら、他者との対話を通して、課題を解決する重要性を実感できる学習活動を設定しています。

4 幼保小連携・小中連携

一年上巻巻頭には、想像が広がる絵物語や、対話を重視した楽しい活動など、幼稚園・保育所などでの経験をいかしながら、国語学習の基礎を築ける場を設定しています。

高学年は、中学校と同様、一年間の学習を見渡せる学年一冊構成としています。小学校での学びを確かなものにしながら、中学校の学びへと円滑に接続します。

6 防災教育

防災教育の観点から、全学年・全ページにわたり、木村玲欧先生(兵庫県立大学教授、専門・防災心理、防災教育)の校閲を受け、編集を行いました。

災害時の備えについて考える教材などを掲載し、防災意識の向上に努めました。



「もしものときにそなえよう」(四年下)

7

SDGs

視野を広くもち、持続可能な社会のために行動できる児童を育てるために、SDGsに関連するテーマを幅広く取り上げました。

① 貧困をなくそう ・「考える人の行動が世界を変える」(六年)	⑦ エネルギーをみんなにそしてクリーンに ・「パンフレットを読もう」(四上) ・「自然環境を守るために」(五年)	⑬ 気候変動に具体的な対策を ・「もしものときにそなえよう」(四下) ・「イーハトーヴの夢」(六年)
② 飢餓をゼロに ・「二つの花」(四上) ・「やなせたかし」 ——アンパンマンの勇気(五年)	⑧ 働きがいも経済成長も ・「ロボット」(二下) ・「人間は他の生物と何が違うのか」(六年)	⑭ 海の豊さを守ろう ・「文章を推敲しよう」(六年) ・「海の命」(六年)
③ すべての人に健康と福祉を ・「みんなが使いやすいデザイン」(五年)	⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう ・「ロボット」(二下) ・「風船でうちゅうへ」(四下)	⑮ 陸の豊かさを守ろう ・「神様の階段」(四上) ・「固有種が教えてくれること」(五年)
④ 質の高い教育をみんなに ・「ぼくのブック・ウーマン」(六年) ・「星空を届けたい」(六年)	⑩ 人や国の不平等をなくそう ・「みんなが使いやすいデザイン」(五年) ・「考える人の行動が世界を変える」(六年) ・「人間は他の生物と何が違うのか」(六年)	⑯ 平和と公正をすべての人に ・「ちいちゃんのかげおくり」(三下) ・「二つの花」(四上) ・「たすねびと」(五年) ・「やなせたかし」 ——アンパンマンの勇気(五年) ・「考える人の行動が世界を変える」(六年)
⑤ ジェンダー平等を実現しよう ・「ぼくのブック・ウーマン」(六年) ・「人間は他の生物と何が違うのか」(六年)	⑪ 住み続けられるまちづくりを ・「もしものときにそなえよう」(四下) ・「あなたは、どう考える」(五年) ・「星空を届けたい」(六年)	⑰ パートナリシップで目標を達成しよう ・「考える人の行動が世界を変える」(六年)
⑥ 安全な水とトイレを世界中に ・「目的に応じて引用するとき」(五年)	⑫ つくる責任つかう責任 ・「未来につなぐ工芸品」(四下) ・「自然環境を守るために」(五年) ・「子どもと未来科」で何をする」(五年)	

8

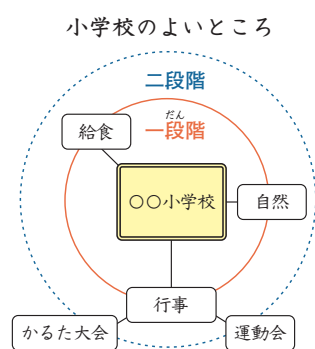
拡大教科書への取り組み

拡大教科書は、弱視の児童の負担を軽減するため、活字を大きくした教科書です。光村図書は、法制化に先駆け、平成四年度版から拡大教科書の制作を続けています。単純に拡大するのではなく、内容を損なわないように再構成し、文字サイズの異なる三種類を発行しています。

9

色覚特性への配慮

色覚に特性のある児童が学習に支障をきたすことがないよう、市原恭代先生(工学院大学准教授、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構「CUDO」理事)に、全ての紙面・図版・イラストについて校閲を受けました。色の組み合わせに配慮したり、色以外の要素でも区別できるようにしたりしています。



線の種類を変え、色に頼らなくても識別できるよう作成しました。

二・四・六・八・十・十二の巻末に、「SDGs (持続可能な開発目標)の達成に向けて」として、発達段階に応じた図書を紹介しています。

特別支援教育への配慮

特別支援教育の観点から、全学年・全ページにわたり、氏間和仁先生（広島大学大学院准教授、専門・特別支援教育）の校閲を受けました。また、文字の習得や設問の立て方などについても、学習のユニバーサルデザインの観点で、小貫悟先生（明星大学教授、専門・LD、ADHD、高機能自閉症などへの援助技法の研究）の校閲を受け、編集を行いました。

学びやすい紙面レイアウト

▼学習の流れが分かりやすい

学習の流れを把握し、見通しをもつことが児童の理解を助けます。そこで、「話すこと・聞くこと」「書くこと」および「読むこと」手引きは、上段と下段の性格づけを明確にし、どこを、どう読み、何が大切なのかを直感的に分かる紙面レイアウトとしました。

▼情報のまとまりが分かりやすい

情報と情報の境界を明確に区別できるよう、間を空けたり、線で囲んだりしています。

▼大切なことが分かりやすい

「たいせつ」など、重要なポイントには、目につきやすい色ではっきり囲んで他の情報と区別できるようにしています。また、「たいせつ」や用語解説などはマークを付して示しています。



詳しくはこちら。

読みやすさへの配慮

本文には、教科書のために特にデザインした自社作成の教科書体を用いています。この書体は、読みやすいだけでなく、書き文字に近いため、子どもたちに字形を意識させることができます。

また、見出しなどの着目させたい箇所や、図書紹介などの文字の小さな箇所などには、UD書体を使用しています。



登場人物についての考えをつたえ合う

○ 次のことに着目し、場面や言葉をむすびつけながら、登場人物の気持ち

UD書体

語のまとまりが捉えやすいように、低学年では、単語や文節の途中で改行しないよう配慮しました。

通常の改行

青い 空の なかへ か
えって いきました。

まとまりに配慮した改行

青い 空の なかへ
かえって いきました。

国際化

増加する外国人児童生徒等への配慮のため、浜田麻里先生（京都教育大学教授、専門・日本語教育）の校閲を受けています。教師用指導書には、漢字の習熟が十分でない児童の負担を軽減するため、教科書紙面の全ての漢字に振り仮名を付したものを、PDFデータとして全学年収録しています。

人権上の配慮

人権教育に配慮した教材の選定、学習活動の設定を行うために、出口真紀子先生（上智大学教授、専門・人権教育）の校閲を受け、次の点を考慮しました。

- ・教材および、紹介図書、挿絵の全てについて、人権教育の観点から検討し、厳選しました。
- ・教科書全般にわたって、教材や挿絵に登場する人物に、性別等による偏りがないようにしました。また、人種・身体的特徴などについても、多様性に意を用いました。
- ・ことわざ・慣用句など、時代性による人権上の配慮が必要となるものについては、教材中にその旨を明記しました。

